

## 花草木

### 【カタバミ】

カタバミ（片喰み・酢漿草<sup>かたばみ</sup>、学名：Oxalis corniculata）はカタバミ科カタバミ属の多年草で、日本では道端や空き地、農地などでもよく見かけます。

和名のカタバミは漢字で「片喰」と書きます。ハート形の葉が、昔の人には一部が食べられて欠けているように見えたことに由来しています。

また、カタバミは「酢漿」と書くこともあり、「酸葉（すいば）」「スイモグサ」と呼ばれることもあります。これは葉や茎にシュウ酸を含んでいるため酸っぱい味がするのが由来です。

このほかに「黄金草（おうごんそう）」「鏡草（かがみぐさ）」「銭みがき（ぜにみがき）」とも呼ばれます。

いずれも、カタバミに含まれるシュウ酸を利用して、カタバミの葉で古い銅製品を磨くと錆が取れピカピカになることが由来です。

カタバミの花言葉は「輝く心」「喜び」「母の優しさ」です。



大阪市内の道路脇で咲いていたカタバミの花

### 我が署のスタッフ 三重森林管理署

田中 廉大（たなか れお）、杉田 樹莉愛（すぎた りりあ）（令和6年度採用）

#### 【現在取り組んでいる仕事は？】

（田中）業務グループの経営担当として、立木販売や副産物の販売、施業実施計画の編成、境界の保全などの業務に携わっています。日々の業務で上司や先輩方に教えてもらいながら徐々に理解できる範囲が広がっていますが、測量関係業務など知識不足な部分も多々あるので、これからも積極的に学んでいきたいと思っています。

（杉田）治山グループでは主に治山・林道事業を担当しています。実際に現場の調査を行うために山へ行ったり、調査したところをパソコンで図面に表したりしています。その他にも治山とは違う業務を手伝うこともあり色々な分野で学べるので勉強になっています。少しずつ業務をこなせるよう精進していきたいです。

#### 【職場の雰囲気は？】

（田中）優しく親切な方が多く、質問や相談にも親身に対応してくださるので、安心して仕事ができます。

（杉田）穏やかで話しやすい人が多いので相談しやすく、落ち着いて仕事ができる雰囲気です。

#### 【林野庁の魅力は？】

（田中）現場業務で直接森林に触れることができるので、自然を相手に仕事をしているのだと実感できるところが魅力だと思います。

（杉田）自然を通して仕事に携われるところです。植物や動物など様々な自然の命を感じることができるのが魅力の一つだと思います。



グループが協力して行った未立木地調査の様子  
（左：杉田、右：田中）

## 森林事務所等紹介

### みのお 箕面森林事務所（京都大阪森林管理事務所）

森林官 中井 智美（なかい ともみ）

箕面森林事務所は、大阪府内すべてが管轄区域となり、5か所の国有林を管轄しています。総面積は1036haと少ないですが、大阪の北部と南部に比較的大きな森林が所在しています。



レクリエーションの森施設（勝尾寺園地）

歩道が整備され、ハイキングやボランティア団体の森林整備活動の場として多くの方に利用されています。

特に、箕面国有林の大半の部分は国定公園に指定されており、東京都の高尾山まで続く「東海自然歩道」の西の起点に位置し、観光地（箕面の滝）にも隣接しており、観光客の訪来、市内外のボランティア団体の多くの活動の場となっていることに加え、管



国定公園関係機関との合同パトロール



台風被害木処理事業地・箕面国有林（風倒木伐採後）

北部にある<sup>みのお</sup>箕面国有林は大阪府中心部に近い都市近郊林であり、豊かな森林環境を有し、大半がレクリエーションの森に指定され、森林ボランティア活動や森林環境教育などの実践フィールドとしても多くの方に利用されている国有林です。

南部の<sup>きせんこうげん</sup>紀泉高原国有林もほぼ全域がレクリエーションの森に指定されており、和歌山県へ続く歩道は人気のあるハイキングコースです。高槻市にある



紀泉高原国有林境界からの眺望（大阪湾）

3つの国有林も、

理経営に際しては観

光地や国定公園を管理する大阪府、箕面市といった行政機関を含め多方面の関係者との関りのある国有林です。

そのため業務では、通常的林況調査や巡視業務、事業監督に加え、レクリエーションの森の管理（歩道沿いの危険木処理、施設管理、一般開放している園地の整備等）や関係団体と協力・連携した活動（ボランティア団体や行政機関との意見交換や協働の取組）も大切な業務になっています。

管内の森林の約6割が人工林であり、そのほぼすべてが利用期を迎えているなど恵まれた状況であり、計画的な間伐事業を実施できるよう調査を進めています。一方で、平成30年の台風により大きな風倒木被害を受けており、被害箇所では現在も継続して回復へ向けた森林整備が計画されているため、事業発注の為の調査や事業の監督も日々の業務として実施しています。

# シリーズ『国有林最前線！』

## 低コスト省力造林の取組について

### ～オルソ画像を活用した下刈り省略区域の判定～ 三重森林管理署

「下刈り省略」は伐採後の造林経費を節減し、伐採から再生林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」を実現するためにも非常に重要となっています。

下刈り省略の判断には、植生の繁茂状態や植栽木との競合状態の把握が必要なことから、これまではそのための下刈り区域全域にわたる踏査に相当の時間と労力を費やしていました。

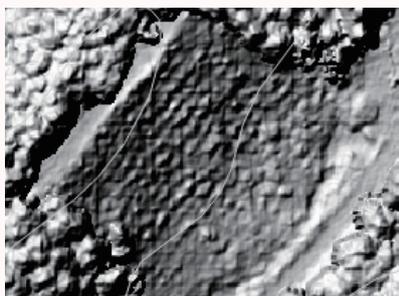
効率的に踏査を進めるため、ドローンの自動飛行で撮影したオルソ画像により植生の繁茂状態の全容を把握し、植栽木との競合状態を判断（C区分判定）※する方法を導入しました。

具体的には、DEM（数値標高モデル）を基に作成した陰影起伏図から樹頂が確認できる林分は、樹冠の先端が雑草木から露出しているとみなして、下刈り省略と判断します。

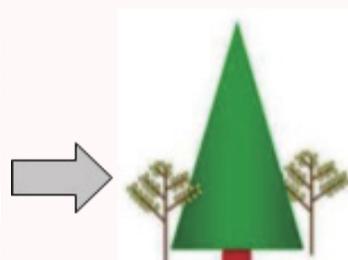
#### 植栽木との競合状態（4年生の林分）



オルソ画像：苗木の樹頂は確認不可



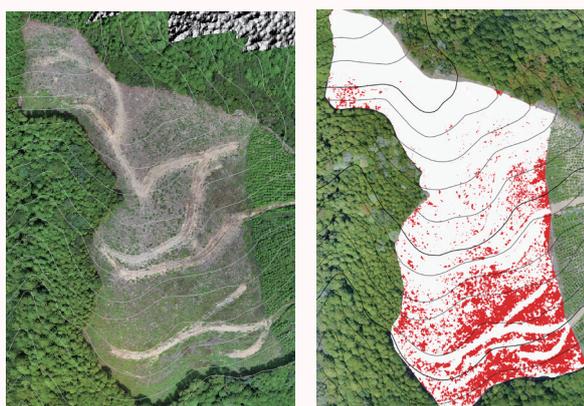
DEM画像：苗木の樹頂が確認可能



C1（下刈り省略）

苗木が小さく陰影起伏図では植栽木を識別することが困難な1年生の林分では、植栽時のDEMと判定時点のDEMの差分により植生高を計測し、推定苗高（1年生なら約50cm）と比較して、競合状態を判断します。

#### 植栽木との競合状態（1年生の林分）



- ・植栽苗木の品質規格 苗長 35cm 以上
  - ・ヒノキ伸長率 143%（森林技術・支援センター資料より）
- $$35\text{cm} \times 1.43 = 50.05\text{cm}$$

植生高 50cm 以上（赤色部分）は C3（下刈り実施）と判断

また、オルソ画像をGIS上に展開することで、下刈り実施区域の位置を正確に地図に反映でき、面積計測、図面作成などが容易になり、書類作成の負担も軽減できます。

この方法を用いて、令和5年度は3.50haの植栽地のうち、1.06haは下刈りが不要と判定し、令和6年度には2.69haの植栽地のうち、1.14haは下刈りが不要と判定しました。

※C区分判定については、令和6年6月号局広報誌「森のひろば」NO.1179の「トピックス」記事で掲載しています。

[https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/koho\\_si/morinohiroba/pdf/no1179.pdf](https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/koho_si/morinohiroba/pdf/no1179.pdf)

